

【3-4 クリニカルクエスチョンの設定】

スコープで取り上げた重要臨床課題(Key Clinical Issue)				
<p>「存在診断」 悪性胸膜中皮腫は、通常自覚症状から発見されることが多く、その場合は進行症例も多いため、治療抵抗性である。一方、近年における画像診断能力の急速な進歩により、検診や他疾患フォローアップ中の定期的な検査で発見される患者も増えつつある。そこで、その疾患の存在を疑う早期画像診断についてガイダンスが必要である。</p>				
CQの構成要素				
P (Patients, Problem, Population)				
性別	指定なし			
年齢	成人(18歳以上)			
疾患・病態	中皮腫を疑う集団			
地理的要件	医療体制の確立した地域			
その他	特になし			
I (Interventions) / C (Comparisons, Controls) のリスト				
I: a) 胸部造影CT、b) 胸部単純/造影CT+胸部MRI、c) 胸部単純/造影CT+FDG-PET/CT C: a) 胸部単純CT、 b) とc) 胸部単純/造影CT				
O (Outcomes) のリスト				
	Outcomeの内容	益か害か	重要度	採用可否
O1	診断率	益	9点	○
O2	安全性	害	6点	×
O3			点	
O4			点	
O5			点	
O6			点	
O7			点	
O8			点	
O9			点	
O10			点	
作成したCQ				
中皮腫の存在診断に、a) 胸部造影CT、b) 胸部単純/造影CT+胸部MRI、c) 胸部単純/造影CT+FDG-PET/CTは勧められるか？				

